

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0592200042		
法人名	有限会社シャトル		
事業所名	グループホームことおか		
所在地	秋田県山本郡三種町鹿渡字千刈田255-1		
自己評価作成日	令和5年8月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和5年9月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は利用者が役割を持ち、安心して生活できるよう基本理念の”笑顔と和”を大切に、利用者を中心とした生活を送っている。ホームの菜園で収穫した野菜は食事に彩りを添えている。令和3年に自分たちの生活は自分たちで決めるという主旨から「入居者自治会」を発足、より住みやすくするための話し合いを行っている。会議では利用者の本音が出るよう職員がサポートし、話し合いにより利用者同士職員との関係がより深まっている。医療関係者や地域ボランティアなどの協力を得ながら健康面での管理や日々の豊かな暮らしを支援している。静かでのどかな環境に恵まれ、電車が通るその風景が気に入ったと入居を決めた利用者もいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者からの個別の聴き取りだけでは、思いや意向を十分に把握できないことから発足した「入居者自治会」が功を奏し、認知症でありながらも自分の意見を表出できる場となり、利用者のQOLが格段に高まっている。さらに、職員の得意な部分を活かした支援により、マンパワーが遺憾なく発揮され、利用者職員との”笑顔と和”が大きく広がっている。毎日名前を書く練習をしているおかげで、全員名前を書くことができたり、ふるさと巡りや盆供養等の行事を工夫したりと、利用者のために向けられる丁寧な支援は、利用者の満足度のみならず家族の下にも届いている。利用者の意思決定を尊重し、利用者の自立支援を支えるための一貫した支援が、非常に優れているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホール中央に貼り出した基本理念の掲示物は利用者と共に手作りしたもの。職員は常に笑顔と心の和を意識し実践につなげている。	開設当初から17年間、「笑顔」と「心の和」をキーワードとする理念を手作りのボードでホール中央に貼り出し、皆が常に意識できるよう取り組んでいる。利用者一人ひとりの「笑顔」と、穏やかなホームの雰囲気から、「心の和」が保たれ、理念の実践がなされていることを確認できた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との繋がりを大切にし、利用者と職員が協同で作った彼岸花をコロナ禍で面会が制限された中でもメッセージカードを添えて届けている。毎年訪問を心待ちにしている方もいるなど、関係が途切れないように交流している。	利用者の家族や以前入居していた方の家族、地域のクリーニング店や床屋等に彼岸花を利用者が職員と一緒に届ける活動が続けている。地域とつながりを深める活動を通じて、地域への深い思いが周囲にも届いている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	町の図書館にホームで育てた花を飾ったり、コロナ禍で行動制限された子供たちを励まそうと手作りの花のリースを小学校へ贈り認知症の人の持っている力を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の開催が出来ない中でも2ヶ月に1回活動や利用者の近況を報告している。報告書を直接持参し、委員から評価や意見をいただけるようにし、意見はサービスの向上につなげている。	コロナ禍により運営推進会議を実施できていないが、その代わりとして関係者に活動報告書を渡している。直接届けることで、前回の報告書に対する感想等を聞くことができています。	コロナ禍前に実施していた運営推進会議では、様々な意見がいただけたとのことだったので、活動報告書を届ける際、書面で意見を求める機会を作り、サービス向上に活かしていくことに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	書類提出等の際は担当者と会い、事業所の実績やケアサービスの取り組みを伝えている。又、町主催の会議の参集には積極的に参加し、協力関係を築いている。	町の福祉課の呼びかけで、グループホーム管理者の情報交換会が開催され、運営にあたり苦労していること等を話し合う機会になったとのこと。これを契機に町のグループホーム同士のつながりや悩みの共有もできている。福祉課の職員との関係も良好で、情報を得やすい環境にある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的拘束等適正化委員会及び高齢者虐待防止委員会を毎月1回開催し、日常ケア等について検討し職員会議で周知徹底している。小さな芽も虐待につながることを意識し、年1～2回の社内研修で身体拘束虐待防止について学んでいる。	前回の外部評価終了後に掲げた目標達成計画を踏まえ、委員会活動に力を入れている。委員会活動を行うことにより、職員の不適切な言葉遣いについて疑問に思う声が挙がり、会議で話し合う機会になっている。職員間の風通しが良く、注意喚起できる環境にある。今年度、社内研修を3回実施する予定にしており、職員の資質向上を目指している。	
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議の勉強会の中で制度について学んでいる。権利擁護や後見制度を利用している利用者があり、事業や制度を身近に感じ活用している。支援員や後見人は毎月訪問があり近況を報告している。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には十分な時間をとるようにし、説明がきちんと伝わっているか確認しながら進めている。不安や疑問を尋ね、その場で質問が出ない時があってもいつでも受容できるような体制作りをしている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	電話する機会や支払いで来所の際には、要望などお聞きし、普段のケアに活かしている。苦情など出しやすい環境を作っている。他、苦情処理に対しては迅速且つ誠意をもって対処し、社内研修にて職員の資質向上を図っている。	利用者の様子を月1回写真つきで伝えており、家族からは「安心している」との声が多数寄せられている。何かあればいつでも意見や要望を受け付けており、職員が利用者の個々の問題に丁寧に対応し、利用者一人ひとりを大切に思っている気持ちが家族にも伝わっている。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	毎月の職員会議に参加する施設長は職員の身近な存在であり、又それが職員の理解へと繋がっている。月1回の管理者会議において、代表者へ報告することで意見や提案が適切に反映される要素となっている。	職員の休みの希望があれば、「休み希望ノート」に事前に書き込んでもらい、勤務に反映させている。職員は管理者へ絶大な信頼を寄せており、管理者も職員に対して感謝の気持ちを持って業務に当たっている。人員不足ではあるが、一人ひとりの職員の強みが最大限に発揮されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との顔合わせ会議に参加することができ、交流することで今までになかったネットワークが広がったと思っている。そこで得た情報は施設サービスの質の向上に繋がっている。		
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前情報を参考にしながら、当の本人が今何に困っているか、又不安、要望などに耳を傾け、表出が難しい利用者でもその表情から読み取るようにし、安心につなげた関係作りに努めている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族一人ひとり立場により、不安や困っていることが違うことを念頭におき、それぞれの思い・要望に耳を傾け、利用者だけでなく家族とも同じような信頼関係作りに努めている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする中で利用者一人ひとりの要望が職員に伝わり、施設での生活がより住みやすくなるよう入居者自治会を立ち上げ話し合う場を設け、利用者と職員が共に支えあう関係を築いている。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族そして親子それぞれ関係性や絆を理解し、ご本人の情報を共有し合うことで共に支えていく関係作りをしている。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	ふるさと巡りと題したドライブでは母校や自宅、公園へ行きそれぞれの思い出や自慢話をしながら馴染みの場所を巡った。暑中見舞いや年賀状のやり取り、又希望があればいつでも電話できるように支援している。	ふるさと巡りや外出の様子を写真に残し、廊下に掲示することで、利用者の方々が時々思い出す機会を作っている。暑中見舞いや年賀状は、必ず利用者に名前だけでも書いてもらっている。受診は職員が付き添っているが、その際に親族と会う機会を作っている利用者もいるとのこと。墓参りできない利用者のために、職員が木魚やリンを準備し、お経を流しながら男性職員がお坊さんに扮して盆供養を行っており、大切な人を偲ぶ機会となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自治会会議の中で体力の衰えた方を孤立させないようにするにはどう支え合うか、利用者同士で話し合いができるように支援している。全ての利用者がホールで過ごす時間が多い中、居心地がよいと感じることができるよう職員がさりげない言葉がけをしている。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居した利用者の家族を訪問したり、連絡を取ったり又家族が来所する等その後の経過もフォローし時には相談に乗っている。		
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	満足度アンケートでは拾いきれない部分があり、“入居者自治会”を立ち上げ、暮らし方について話し合う場を設けた。利用者一人ひとりの担当スタッフが深く関わることで、心身の状態などの把握ができるようになっていく。又プランは本人はどうなのか？の視点に立って作成している。	入居者自治会が、認知症でありながらも自分の意見を表出できる場となり、職員の予想以上に利用者同士がお互いを思いやり、QOLの向上につながっている。入居者自治会のおかげで、利用者間のトラブルも減少しているとのこと。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴は本人を知る上で重要であると認識している。家族や関係者からの情報を得るようにし、本人の生きがいに繋がるように努めている。ふるさと巡りと題したドライブでは「思い出の地」を訪問し、馴染みの暮らし方の参考にした。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	職員会議の中で、ケース検討を毎月行っている。各利用者の担当が現状を述べ職員全員が意見やアイデアを出し合い、本人や家族も含め話し合ったことを反映させ、常に現状に即した介護計画を作成している。	担当が利用者の様子を把握し、その状況を反映させている。他にも、入居者自治会での意見や、夜勤の際等の静かな環境時に話してくれた利用者の本音をキャッチし、それらの内容を踏まえて介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	本人の発した言葉、ケアの実践そして結果、そこでの気づき、工夫したことなど、情報共有には業務日誌を活用して新たな実践や介護計画の見直しに活かしている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	駐在所員の訪問時には、施設の実情を説明し安心して安全な生活ができるよう協力を願っている。近隣ボランティアや医療関係者などの協力を得るなど地域資源を活用することで個々の生活が豊かになり暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を大切に、受診同行している。その際には情報提供を細やかに記した受診票を作成し医師に伝わるよう努めている。薬についての専門的情報やアドバイスを、かかりつけ薬局から得よう普段から良好な関係を築いている。	管理者や職員が受診同行する際には、あらかじめ医師に伝えることを書面にまとめ、受診後の内容も記載してファイリングしている。週2回の往診や月2回の訪問看護があり、薬局とも良好な関係を築いている。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃小さな疑問や質問は訪問看護師や往診時同行した看護師、又隣接するショートステイの看護師に相談している。そのことから適切な受診に繋げている。又、隣接するショートステイの看護師に相談もできる。		
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	本人・家族共に入院先で安心して治療に専念できるよう、早期の退院を目指して関係者と情報交換に努めている。病院関係者との関係は良好である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から重度化と終末期について本人や家族と話し合うようにしている。事業所ですることができることを説明し、理解を得ている。本人の状況が変わった際には、家族・本人が不安を感じることはないよう近隣施設の関係者と情報を交換し合い、支援に取り組んでいる。	看取りは行っていないが、できる限りの対応に努めている。過去にホームで急にご逝去された利用者があり、主治医に連絡し、静かに見送りすることができたとのこと。体調の変化は速やかに家族に伝え、重度化や終末期の情報を近隣の各関係機関と連携しながら、体制をしっかりと整えている。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故発生時の備えとして、救急救命講習を受講したり、勉強会にて初期対応の訓練をしている。隣接のショートステイにはAED設置、看護師への相談もできる。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者は自力避難が困難な施設ということを知った上で、地域協力隊として近隣住民に協力を得られるようにしている。又職員は利用者が安全に避難できる方法を昼夜を問わず身につけるようにしている。	平成18年の開設以来、大きな災害は起こっていない。停電の際には同系列会社のガソリンスタンドから地下水、親会社である建設会社から工事用の電灯の提供を受けることができたとのこと。地域協力隊の方には、何かの時に協力が得られるよう、日頃から関係性を大切にしている。親会社からの米の提供も心強い。BCPを作成しており、今後、見直しを繰り返していく予定とのこと。	
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳を尊重することは重要であることを勉強会で確認し知識を高めている。プライバシーに関わることは居室にて1対1で話し合い、誇りを損ねない言葉かけや対応をしている。	トイレに誘う場合の声かけには特に注意を払っている。プライバシーに関する勉強会は、個人情報保護規程や、介護度とプライバシーの関係についてのテーマで行い、職員一人ひとりの研修参加記録簿(研修内容及び感想)を回覧し、それぞれの気づきにつなげている。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地元の洋品屋の協力で施設に商品を並べ、個人が好きな洋服をゆっくり時間をかけて選べるように支援している。家族の希望も含めその人らしいおしゃれが楽しめるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みのメニューが選べる選択メニュー、又調理レクリエーションで得意料理を再現できる時間も設けている。ホームの菜園で作る野菜は成長過程が在宅時と同じように楽しめる利用者にも好評である。収穫物はみんなで作ごしらえし、食事に取り入れることでより豊かで楽しい食事となっている。テーブル拭きやお盆拭きなど利用者と一緒に準備・片付けをしている。	選択メニューの時に食券を準備したり、コーヒータイムの前に注文書の用紙に自分の名前と希望の飲み物を書いてもらったりと、楽しく食事ができるよう工夫を凝らしている。調理の得意な職員を中心として、家庭菜園や近所からいただいた野菜を調理し、調査当日には彩りの良い盛り付けに利用者からの歓声や、「何を食べてもおいしい」との声が聞かれていた。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの水分量が把握できる表を作っている。バイタル・食事量、そして残した物も記録し、栄養バランスを確認、一日の状態をとらえ状況に応じた支援をしている。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力でケアができる方にも毎回声掛けをし汚れが残っていないか確認している。個々の力に合わせた介助でケアを行い口腔内の観察も怠らないようにしている。口腔ケア用品も毎日消毒・殺菌を欠かさず行っている。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄チェック表で時間を記録、それぞれのパターンを共有しさりげない声かけ誘導にて排泄支援に取り組んでいる。運動、水分補給も確認した上で自立に向けた支援に努めている。	ウエスを濡らし、古い炊飯器で保温するというグッドなアイデアを取り入れ、毎朝全員の臀部を温かいウエスで拭き取ることで、清潔保持に努めている。排泄パターンを把握し、プライバシーに配慮しながら、自立に向けた支援を心掛けている。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄、特に便秘は体調管理にとっても重要であることを理解している。水分補給や食事作りを工夫し、日課の中にリズム運動・体操・レクリエーションなど楽しみながら参加できるよう支援。自然排便に向け力を入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者が心待ちにしている入浴日は当日の個々の心身の状況に合わせて気持ちよく入浴ができるように配慮。希望があれば入浴日以外でも対応できるように準備している。利用者からの労いの言葉は職員の喜びであり、力となっている。	色を視覚で楽しめるよう入浴剤を使用し、歌いながらリラックスして入浴できる環境作りに努めている。週3回の入浴ではあるが、いつでも入れるよう着替えのセットを脱衣所に準備し、着たい衣類がある場合にはその都度交換するよう配慮がなされている。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前の軽い体操、個々の体力や状況に合わせた日中活動やレクリエーション。一人ひとりの希望により休息を取り入れるなど疲労感が残らないようにし、快い睡眠がとれるよう支援している。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個別のファイルに薬の用法・用量・副作用について明記している。薬の追加や変更があった時は速やかに更新・訂正後、職員に情報を伝達し服薬支援をしている。服薬後も症状の変化の確認をすることで受診時の報告につなげている。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の生活歴、又生活を共にすることで把握できる個々の能力、それを活かした創作活動。一人ひとりの力を活かし創り上げた完成品は玄関・ホール・廊下に飾り、喜びを分かち合っている。日常の会話の中から楽しみごと・嗜好品を聞き出すことで支援の方法につながるようになっている。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「お天気がいい今日は山菜取りに行きたい」と突然の要望に近くの山へ出かけフキを採ることもある。コロナ感染に配慮しながら時には職員が遠くまで買い物の同行をすることもある。又彼岸やお盆の墓参りなど家族と連絡をとりあい協力を得て外出の支援をしている。	今年は黄砂や豪雨、高温と外出したくても天候に恵まれないことが多かったが、花見や買い物その他にふるさと巡り等、工夫を凝らした外出支援に取り組んでいる。入居者自治会で、ドライブ後の食事を作る担当職員が一人ホームに残るのではなく、全員でかけたいとの意見が利用者から出ており、花見で実行できたとのこと。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の同行時は本人よりレジにて支払いをし、お金を使えることの喜びと大切さを感じ取ってもらうよう支援している。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の共用空間は混乱を招かないよう整備されている。日中ほとんどの利用者が過ごすホール内では野菜を切る音や匂い、調理の状況がわかる調理場が見え生活感を身近に感じることができる。地域のボランティアから届く草花が季節感に彩りを添え、居心地のいい時間を過ごせるよう工夫している。	ホールの窓からは電車の通る田園風景が広がっており、さらに季節に合わせた壁面飾りにより、四季のうつろいを感じることもできる空間となっている。廊下にはたくさんの写真、利用者が書いた1日の献立等が飾られており、ホームすべてが家庭的な温かい雰囲気にも包まれている。	
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中多くの時間を過ごす共用空間は、利用者の希望を取り入れ思い思いに快く過ごせるようなソファの配置をなっている。時にはトラブルになりそうな場面も見逃すことのないよう職員は見守り、目配りを行っている。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の希望を取り入れ、馴染みの品を配置することで在宅時と変わらない本人の居心地のいい空間となるように工夫している。毎朝炊きあがったばかりのご飯を仏前にお供えすることも在宅時と変わらずに行っている利用者もいる。	お墓のことを心配して入居し、入所後にお墓を建て、その写真を飾って安心して生活が送れている利用者や、自宅から亡くなった旦那様が座っていた椅子を持参し、思い出の品をいつでも側に置いている利用者もいるとのこと。作成した作品や写真が飾られ、清潔感のある居室が居心地の良い空間となっている。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりできること、わかることが活かせるよう各居室やトイレなどの表示は大きな文字にし、戸惑うことのないようにしている。それぞれの利用者が自立に向けた生活を送れるよう工夫している。ホーム内すべてにある手すりは安全な移動ができるようになっている。		